

製本のススメ

Vol. 214

ウイルスが蔓延しても景気が悪くても ちゃんと季節は変わっていきますね。関東も梅雨に入りお日様が恋しくなってきました。雨は雨なりに楽しむ事も大切ですが、食中毒の発生し易い時期でもあります。手洗い消毒は本当に大切です。

今回は**久々に上製本**の話し

そもそも日本には「和綴じ」と呼ばれている加工方法がありました。海外から印刷技術と機械が導入され 現代に繋がる製本加工が始まりました。この洋書と呼ばれる本が『丸背上製本』のスタイルです。つまり近代の印刷・製本技術の基本となっています。冊子やネット上の挿絵で本の構造と紹介されている物の殆どが丸背上製本の絵になっているのは、製本技術のすべてが使われているからです。紙も海外から新しい規格の物がやってきました。印刷(当時は活版印刷)も製本も こぞって新しい技術で大量に冊子を作れるようになっていきます。

歴史はさておき 上製本と呼ばれる冊子を作るには 紙も印刷の知識も製本の知識も【上級】であることが求められます。ハードカバーを付ければ上製本というわけではなく **とりわけ丸背上製本は 紙・印刷・製本と一切の妥協を許してくれません。**当然ですが前工程での不手際は 最後まで影響し出来上がりも決して良くありません。紙目に至っては どうにも手の施しようがなく(基本的には)紙取りからやり直しです。

さて 最近ではオンデマンド印刷が多くの割合を占めるようになりましたが、印刷手法が異なり かなり用紙に負担を掛けます。その為 上製本加工の**工程によっては紙やインクが耐えられない場合も多く とりわけ丸背上製本加工には不安があります。**一番の不安点は水分で上製本では表紙貼り・見返し貼りと水性の糊を使います(この水分で紙目を利用し本の形を整えます)この水分が本全体にまわり、不具合の原因になります。冊数が少ないからと安易にオンデマンドという選択は 決して推奨できませんが コストの事も考慮すると一概に反対もできません。顧客としっかり確認してどの程度までは許せる不具合なのかを決める必要があります 営業側にもしっかりと知識を持ってもらいたい所です。



Tea break (重要なお知らせ)

お気付きの方もいらっしゃるかと思いますが、弊社ホームページを引っ越しました。その為 **HP アドレスとメールアドレスが変更**になっています。順次ご案内をさせて頂いておりますが、下記メールアドレスと HP アドレスの変更をお願い申し上げます。

6 月中は、変更前のメアドでも受信可能ですが、それ以後 届かない可能性がありますので、ご注意下さい。

弊社 HP は <https://www.iseki-seihon.com>

メールアドレスは info@iseki-seihon.com

ご登録の変更をお願い申し上げます

by (株) 井関製本